

What's New From ASCIKU

関西大学科学技術振興会 No.19 August 2009

平成21年度 第3回研究会を開催 8月22日(土)

今年度の研究会は、「企業側から、独自のものづくりを展開されている個性豊かな経営者からの講演、および大学側から、社会の課題実現につなぐ先行的な研究について研究員からの講演」の企画により開催します。会員、研究員等、38名の出席でした。

1. 『2眼レフ論』から産業首都へー大阪の課題と再生ー

関西大学経済学部 准教授 榊原 雄一郎 氏

大阪経済の盛衰と2眼レフ論的視点、大阪の地番沈下と東京一極集中の進展、産業首都名古屋の経済の特徴、そして大阪再生の可能性と課題について、資料に基づく具体例を示しながら判り易く述べられました。結びの大阪経済の復活のための提言ー「真の意味」での地方分権の推進、既存産業の充実と産業首都化、および都市のイメージの向上ーは、現実的で期待を抱かせました。中でも、都市のイメージの向上で、大阪が日本の一地方都市にならないために、大阪が住みたい街、ビジネスがしやすい街にしないと、関西大学も入学したい大学にならない。大阪経済の復活を実現するために、それぞれの立場で知恵を出す努力の重要性が示唆されました。



榊原准教授

2. 「燃えるチームの作り方ー圧倒的な成果を生み出すチームづくりー

株式会社 トップコーチングスタジオ 代表取締役

株式会社 パーテック 代表取締役会長

末松 大幸 氏

チームが燃えない原因は、どこにあるか？現場で起きている問題は何か？燃えるチームとはどういうものか？ について、工業用特殊ブラシなどの製造・販売の企業野経営者としての40年間の多くの体験から分析した事例を元に、「コーチ型リーダーシップ」の必要性について穏やかな語り口で紹介されました。

「コーチ型リーダーシップ」は、自分が変わると周りが動き出したことから得られた“気づき”の発想である。自分が変わるということは、お金がかからずすぐ出来ることである。大事なことは「他人と過去は変えられない。自分と未来は変えられる。」変えられるものだけにフォーカスしていくことである、との大変興味深いお話をされました。

交流会 研究会終了後、同会場にて講師のお二人を囲み、和やかに意見交換しながら交流を深めました。



末松氏

天神祭にて奉納船に乗船 7月25日(土)



船渡御出発前の鳳講客船での振興会メンバー(法被姿)

心配された雨も昼間に収まり、そのお陰で余り暑くなく川面の風を感じながら、振興会20名のメンバーは頭上に轟く5,000発の花火や船がすれ違う度の“大阪締め”を楽しむことが出来ました。

校友会の「関大丸」との行き交いでは一段と盛り上がり、鳳講責任者から関大の名を大いにマイクで流して貰え、鳳講船渡御の中で関大の存在がクローズアップされました。同船者から、私は文学部卒です、あるいは孫が今関大在学中です、の声がかかり有り難いものです。

今年は、外国人招聘研究者(受入れ; 堂垣正博環境都市工学部教授)を招待したのが特筆されます。

アメリカ・ボストンで既設橋梁の維持管理に関わるモニタリングを研究し、実橋による現場計測を行っているProf. Masoud Sanayi (マサウ サイ) 氏で、5月末に来日、

6月には先端機構E部門研究発表会で講演をされました。同氏と家族3人は、私達に合わせて“大阪締め”や、鳳講責任者から借りた拍子木を打ち、船渡御を大いに楽しんでおられました。

ご一家は、7/31日本を離れて帰国の途につかれました。日本で、大阪で、そして関大での思い出がこれからもいい思い出として残っていただけるようですと、大変嬉しく存じます。以下、堂垣先生を通じて戴いたサナイエ先生からの感想文です。



Prof. Masoud Sanayei 氏一家

天神祭によせて

関西大学のゲストとして、私の家族と私はすばらしい天神祭に参加することができました。私の家内モジャンと、2人の娘ネダ(17歳)とエイヴァ(15歳)は、これまでも多くの祭りや花火大会に参加してきました。しかし、天神祭は、私たちが経験してきたこれまでの祭りとは比較できないほどすばらしいものでした。提灯やかかり火で灯され美しく飾られた船、浴衣を着た踊り子や謳い手、行き交う船とのリズムカルなお囃子や手拍子、それに両岸で放たれる花火は魅惑的な雰囲気漂わせていました。私たちは、美しい色とりどりの花火、それに浮き船や両岸から聞こえてくるお囃子を楽しみながら、大川で繰り広げられる伝統的で、歴史的なお祭りに参加できたことに対し、感謝に絶えません。まさに、今夜の催しは、私の家族と私にとってこれからずっと忘れ得ぬ思い出となるでしょう。2009年7月30日(木)

お知らせ 1



左から3人目が田村 裕教授

タイ王国、バンコク市で行われた **International Bio-plastics Symposium** について 平成 21 年 9 月 2 日 (水) **田村 裕** 化学生命工学部長が講演

標記シンポジウムでは、生分解性高分子化合物の合成とリサイクルに関する講演と口頭による研究発表とポスター発表が行われた。この分野で世界をリードする日本側研究者による講演では、本学の田村 裕教授と京都繊維工芸大学の3名、経済産業省傘下の創生研から3名、計7名による講演は、タイ王国における環境保全に関する研究の芽を実用化へ発展させるため、日本側の講演は非常に注目された。今後共、同研究によりアジア圏でこの分野の研究を更に発展させることで幾つかの共同研究に関する交換協定が提案されていた。本学田村 裕教授の講演もバイオプラスチック分野の一翼を担うものとして注目されていた。シンポジウムのタイ側主催者から講演者に対して感謝状と記念品が贈呈された。

お知らせ 2

平成 21 年度戦略的基盤技術高度化支援事業に、八田工業株式会社が認定される
 経済産業省中小企業庁では、中小企業のものづくり基盤技術(casting, 鍛造, 切削加工, めっき等)に資する研究開発等を促進することにより、我が国製造業の国際競争力の強化と新たな事業の創出を図ることを目的として、「平成 21 年度戦略的基盤技術高度化支援事業(平成 21 年度補正予算事業)」の公募をしていたが、当会隅谷会長が社長を務める八田工業株式会社が認定されました。

<計画名>「ミストコントロール冷却による低歪み熱処理技術の開発」
 <研究開発の要約>金属材料の高機能化法として熱処理法があげられる。熱処理の基本は、金属材料を高温に過熱すること、これを冷却することである。なかでも冷却の過程は、金属材料の高性能化にとって重要な要因である。本研究は、この冷却過程をミスト噴霧によりコントロールし、高性能金属材料を得ることを目的としている。
 <主たる技術>熱処理 <事業管理者>学校法人関西大学 <法認定事業者>八田工業株式会社

お知らせ 3

研究員・小林 武教授が平成 21 年度(社)日本鋳造工学会の「技術賞」を受賞
 平成 20 年度 当会「産学連携賞」受賞の、化学生命工学部・小林 武教授と、(株)マツバヤシ・松林良蔵社長の共同研究テーマ「硫化物を分散させた環境適応型鉛フリー青銅鋳物の開発」を対象に、(社)日本鋳造工学会から「技術賞」を受賞されました。松林社長には、昨年度に当会の寄附講座の講師もご担当戴きました。

お知らせ 4

会員：北海鉄工所のグループ会社である**北海製作所が「鉄人 28 号モニュメント」を製造**
 鉄人 28 号発進一。阪神大震災からの復興シンボルとして作られた、実物大モニュメントの完成式典が10/4にJR新長田駅南の若松公園で行われました。これは、「Kobe 鉄人 PROJECT」のオフィシャルサポーターとして製造を担当されました。

振興会のホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/sinkokai/index.html>
 関西大学 HP からサイト内検索で「振興会」を入力して下さい

ASCIKU 関西大学科学技術振興会
 Associative Society for the Collaboration between Industries and Kansai University